

○平成31年度決算の概要

(1) 収支計算書の状況

① 資金収支計算書

資金収支計算書は、当年度の学園の全ての資金の動きを示したものです。

資金収入の合計は予算と比較して40百万円下回り13,894百万円となりました。一方、人件費・教育研究経費・管理経費などの資金支出は、予算を261百万円下回り11,231百万円となりました。なお、予備費のうち29百万円を人件費支出の予算に充当しています。その結果、翌年度への繰越支払資金は、予算を220百万円上回り2,662百万円となりました。

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、当年度の資金の動きを3つの活動に分類し、活動区分ごとに資金の流れを示したものです。

「教育活動」では資金収入が9,596百万円、資金支出が9,120百万円、調整勘定等が△146百万円となり資金収支差額が329百万円となりました。「施設整備等活動」では資金収入が1,290百万円、資金支出が1,948百万円、調整勘定等が△89百万円となり資金収支差額が△746百万円となりました。「その他の活動」では資金収入が251百万円、資金支出が179百万円となり資金収支差額が71百万円となりました。その結果、当年度の支払資金が346百万円減少し、翌年度繰越支払資金は2,662百万円となりました。

③ 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動ごとの収入および支出、基本金組入後の収支の均衡状態を明らかにすることにより、学園の当年度における経営状態を示したものです。

「教育活動収支」では収支差額が予算を135百万円上回り、△1,013百万円となりました。一方、「教育活動外収支」は収支差額が予算を23百万円上回り、178百万円となりました。なお、予備費のうち64百万円を人件費の予算に充当しています。その結果、経常収支差額は予算を158百万円上回り、△835百万円となりました。

「特別収支」では収支差額が予算を92百万円上回り265百万円となりました。なお、予備費のうち17百万円を資産処分差額の予算に充当しています。これらの結果、基本金組入前の当年度収支差額が△569百万円となり、基本金組入額316百万円を計上後の当年度収支差額は△886百万円となりました。

また、当年度収支差額△886百万円に前年度から繰越された収支差額△17,196百万円、基本金取崩額2百万円を加算した結果、翌年度繰越収支差額は18,080百万円の支出超過となりました。

(2) 貸借対照表の状況

貸借対照表は、当年度末における学園の財政状態を示したものです。

「資産の部合計」は78,829百万円で、前年度末に比較し778百万円の減少となりました。有形固定資産が396百万円減少、特定資産が179百万円減少、流動資産が201百万円減少したことによるものです。「負債の部合計」は3,977百万円で、前年度末に比較し208百万円の減少となりました。「純資産の部合計」は基本金が314百万円増加、繰越収支差額が883百万円減少し、前年度末に比較し569百万円の減少となりました。その結果、翌年度繰越収支差額が18,080百万円の支出超過となりました。